

一宮地場産業ファッションデザインセンターの活動

公益財団法人一宮地場産業ファッションデザインセンター
野田隆弘

公益財団法人一宮地場産業ファッションデザインセンター（FDC）は繊維産業を代表とする尾張西部地域の地場産業の振興を図るため、1984年2月に開設された。開設にあたっては、国・愛知県、一宮市を始めとする地域24市町村や18業界団体が協調し、実現を図った（2019年現在15市町村、14業界団体）。尾張西部地域のほぼ真ん中、一宮市に所在し、あいち産業科学技術総合センター尾張繊維技術センターとも隣接しており、事業も両機関が各々の機能を補完し有機的連携を図って活動している。FDCでは1人材育成、2展示会、3情報発信、4常設展示の4事項について地域産業の発展・成長を支援している。以下は公益財団法人一宮地場産業ファッションデザインセンターのホームページ（<https://www.fdc138.com/4>、2019年9月30日閲覧）を参照している。

1 人材育成

当地域の企業、業界の活力は、行きつくところ「人材」に帰結する。FDCが力を注ぐ人材育成事業は、繊維企業内の人材だけでなく、将来の繊維産業、尾州産地を担う人材を対象にしている。具体的には尾州産地の業界人向けと将来、テキスタイル・ファッション産業への就労、尾州産地への理解を深めるために全国のファッション系大学、短大そして専門学校生向けの事業を実施している。

1.1 業界人向け

1.1.1 尾州インパナ塾

市場動向やファッション情報を理解し、高度な技術を駆使し、繊維・糸から最終製品までのものづくりの流れと情報・知識を身に付け、アパレル等に的確に提案できる人材を育成している。本事業の活動を具体的に記す。本事業は2005年から継続されており、2019年度も5月より翌年2月までおもに土曜日、午前10時30分から午後4時10分まで23日間行う。座学、インターンシップ、実習から構成されている。そのうち、平日実施は6回あり、3回は協力企業でのインターンシップ、残りの3回は隣接の尾張繊維技術センターで「紡績・撚糸、製織準備・製織および製編、染色・繊維鑑別および理化学試験」の実習である。研修生はおもに尾州産地の紡績、製織、製編、染色仕上、そして産元商社に勤務する社員で繊維産業のさまざまな職種の方から構成されている。9月からは、もっともユニークな講義である「試作開発実習」が始まる。この実習では研修生は4グループに分かれ、「糸から先染、製織（製編）、整理仕上、ガーメント製作」と繊維のスタートから最終までを経験豊富な匠ネットワーク¹⁾の匠講師の指導および外部委託により進められる。

その成果について2月の修了式終了後の成果発表会で研修生の派遣先事業主をはじめ、多数の聴講者に対してプレゼンテーションを行い披露される。その後、後述する総合展「THE 尾州」で静態展示を行う。図1に2018年度に制作した作品の展示状況を示



図1 静態展示 (FDC 撮影)

す。

2019年度は延べ18名が受講しており、2005年度から2018年度までの修了者は223名を数え、尾州産地企業の事業主、管理者あるいは主要なスタッフとして企業活動に貢献している。

1.1.2 尾州ものづくりリレー

尾州産地のテキスタイル製造技術を後世に継承するため、織布工場を借り上げて、匠講師、あるいは製織技術者より実践指導を受け、後継人材の育成を図っている。図2に2018年度に制作した作品の展示を示す。

2019年度からは尾州インパナ塾へも積極的に参加し、製織技術に加えて、情報と知識の習得も行っている。



図2 作品の展示 (FDC 撮影)

1.1.3 新規採用者向けセミナー

繊維企業の新規採用者を対象に、尾張繊維

技術センター職員により「素材と糸、染色と仕上、織物とニットの各分野の解説および尾張繊維技術センターの施設見学」というプログラムで例年6月に1日間の集中講座を開催している。2019年度も例年通りほぼ同時期に開催し、参加者は46名でほぼ例年並みの参加者数であった。以下に受講者からの意見の一例を紹介する。

- (ア) 繊維業界で必要な知識を包括的に学ぶことができ、入学者として勉強になることが多かった。
- (イ) 織物の特性や繊維の種類を学ぶことができました。これからの仕事に活かして行きたいです。今回はありがとうございました。
- (ウ) 全体的に説明もわかりやすく、工場見学時も簡潔に説明してくれたので頭に入りやすかった。
- (エ) 講義の後に施設見学があったので、内容が入ってきやすかった。専門用語が多く難しく感じたが、ハンドブックを読んで理解したいと思う。
- (オ) パワーポイント(スライド)をまとめた資料をいただけたので分かりやすかったです。より理解したいことを復習することができるので良かったです。

尾州産地に限らず、わが国いずれの地域においても産地の縮小が課題となっている。当産地でも同様であるが、これから産地を担う若い方々が大勢参加聴講いただくことは産地の未来の発展を予測させる。

1.1.4 マーケットセミナー

消費者起点のものづくりを行うため、百貨店等小売市場の店頭情報や今後のマーケット情報を提供する。年4回シーズン前に開催しており、参加人数は2014年度から2019年度まで累計で961名(2019年度は3回分の集計値)である。

1.2 ファッション系の大学、短大および 専門学校生向け

1.2.1 翔工房

学生がオリジナルの服を製作するための生地づくりの支援をしている。前述の匠ネットワークの講師の指導により、約5か月間かけて世界に1点しかないユニークな生地を作成する。学生はその生地を用いて衣服を製作し、大学（学校）の卒業制作展・発表会に出展する。加えて総合展「THE 尾州」においてもその作品をファッションショー形式で発表する。図3は2018年度の発表会の様子である。2014年度から2019年度まで148名が148の作品を製作している。



図3 ファッションショー（FDC撮影）

1.2.2 学生産地研修会

将来のファッション産業を担う学生を対象に尾州産地のテキスタイルやファッションに対してさらなる関心、向上心を持つ機会として、2日間にわたり尾州産地内研修を開催している。2019年度の場合、初日には検査機関での研修と全国の織物産地に精通しているファッションアドバイザーによる講義、2日目には織物・ニット工場、染色整理仕上工場、紡績工場を見学し、尾州産地の「ものづくり」を徹底的に研修した。

以下に、学生の意見を紹介する。

- (ア) 学校では絶対に学ぶ事ができないことや、体験がたくさんできて、すごく今後のためになった。布選びの時に参考

にさせてもらおうと思いました。

- (イ) 繊維業界の熱心な人たちの貴重な話や説明が聞けて、とても勉強になりました。どこの工程でも暑い中、丁寧に教えて頂いてわかりやすかったです。
- (ウ) 糸から織り生地、ニット地の生産・加工・実際のアパレルとのつながりを2日間で流れをつかみながら理解することができたので、今回の研修で学ぶことが多く、自分の身になる会でした。
- (エ) 普段経験できないような事ばかりで楽しかったです。糸・生地を作るのには、たくさんの手間をかけて完成されていることが、実際にみることで、より理解を深めることができた。

2 展示会

2.1 ジャパン・ヤーン・フェア

日本最大級の「糸」のみの展示商談会である。2019年2月に一宮市総合体育館で開催された。商社、紡績、合繊メーカー、意匠撚糸メーカー、染色整理仕上企業、繊維関連機器取扱企業62社・3団体がそれぞれ自社の強みを活かし、機能性、意匠性に富んだ高付加価値の糸を提案し、染色整理技術や、繊維機器の紹介をした。

2.2 総合展「THE 尾州」

おもな出展物は「ジャパン・テキスタイル・コンテスト（JTC）2018優秀作品展」、FDCが実施した事業の成果発表（尾州インパナ塾作品の静態展示、ものづくりリレーの成果作品）、尾州産地の素材やそれらを活かした衣装、学生の作品等を展示した。特設ステージでは翔工房の作品のファッションショーも開催された。

2.3 尾州マテリアル・エキシビション

FDCでは毎年4月（秋冬物）、10月（春夏物）の展示会を開催している。2019年

4月に東京都で3日間にわたり、シーズンテーマ「2020 春夏」を開催した。尾州産地のテキスタイルメーカー16社が参加し、それぞれ開発した1,290点の新作とFDCが提携している「ネリーロディ」社のトレンド情報をもとに制作した開発素材194点を中央に展示して商談が進められ、会期中の来場者は1,112名、サンプルリクエストは合計10,492点であった。出展素材の傾向は機能性素材や麻の商品が人気傾向となっていた。各社ごとでは各社の特徴を生かした製品（イチオシ素材）の関心が高かったようである。

2.4 ミラノ・ウニカ

FDCでは、例年イタリア・ミラノ市で開催されるテキスタイルの展示会である「ミラノ・ウニカに出展している。2019年度は7月に開催され、「ミラノ・ウニカ2019秋冬(Milano Unica 2019 Autumn / Winter (AW))」に出展した。出展回数は、2015AWシーズンから連続して7回目となる。本年度はFDCにおいて尾州産地内から参加企業を公募し、公募に応じた5社によるプロジェクトチームを結成、統一的なテーマを持った共同ブースで出展し、海外での尾州産地のPRとイタリアを中心とした欧州での新規販路の開拓を図った。ブース表記を「BISHU WOOL COLLECTION」とし、尾州産地の特徴を活かしたメイド・イン・ジャパン毛織物の魅力を発信した。尾州のブースは、ターゲットとする欧米有名メゾンから多くの新規来場があり、また過去訪問歴のあるメゾンの多くが固定客としてブースを訪れるなど、継続出展による尾州ブランドの認知度向上の成果が見られた。今後は各社と協力して日本企業の課題とされる展示会後のフォローを迅速丁寧に行い、今後のビジネスにつながるようサポートしていく。

3 情報発信

FDCは、尾州産地の優れた企業、製品、サービスを多くの方に周知するとともに、情報発信に努めている。その一環として、2016年4月1日より、尾州マーク認証制度をスタートさせた。「尾州マーク」とは、FDCが2012年度に実施した産地プロモーション事業で尾州産地を表現するマークとして誕生したものである。

尾州マークの円滑な普及と活動を目指し、FDCではA4建て4ページのパンフレットを作成し、必要に応じて業界に配布し、普及に努めている。

尾州マーク認証を得られる生地は以下の2点の条件を満たすものである（FDC編集 尾州マーク解説資料）。

- ・織布、編立及び整理加工の2工程が尾州産地で行われた製品等であること。
- ・尾州産地で培われた技術的優位性や意匠性を活かして製造されたもので、ものづくりを消費者に訴求することができる製品等であること。

2016年から2019年8月までの総累計販売枚数は834,182枚（織ネーム：246,719枚〔販売枚数に対する比率29.6%〕、下げ札：587,463枚〔同70.4%〕）である。

4 常設展示場

FDCの1階の常設展示場には地元メーカーのアパレル、服地、インテリア織物、意匠撚糸などの産地製品、ならびに尾張西部各市町村の地場産品を展示している。また、尾州産地の生地を使用して製作したブックカバーなどのグッズも販売している。さらに、県内外の「各種イベント会場」にも出展し、尾張西部地域の活動を紹介している。また、各自治体への講師派遣についても対応している。手織教室、ファミリー・クラフト教室、ミサン

が出前教室なども開催している。

5 おわりに

このように FDC では人材育成を柱にさまざまな支援事業を行っている。今後はサステナビリティ社会を展望し、尾州産地の主要な素材である羊毛繊維の動向を一層注視していくことが不可欠であると考えている。

<注>

1) FDC では地元尾州産地で半世紀以上「紡績、撚糸、染色、製織、製編、整理仕上」の業務にそれぞれ携わってきた技術者集団 16 名を「匠ネットワーク」として登録している。尾州インパナ塾、ものづくりリレーおよび翔工房の講師として後進の指導にあっている。